



となりの トトロ

原作 宮崎駿(みやざきはやお)



木 谷 英 章

◎ 主(おも)な登場(とうじょう)人物(じんぶつ)

お父さん : 草壁(くさかべ)タツオ、学者(がくしゃ)、大学の先生
 お母さん : 草壁(くさかべ)ヤスコ、1年前から入院中(にゅういんちゅう)
 お姉ちゃん : 草壁(くさかべ)サツキ、小学校(しょうがっこう)4年生(よねんせい)
 妹(いもうと) : 草壁(くさかべ)メイ、4歳(よんさい)
 大垣(おおがき)カン太(た) : サツキの同級生(どうきゅうせい)
 おばあちゃん : カン太のおばあちゃん



◎ トトロの仲間達(なかまたち)

トトロ : 人間(にんげん)より昔(むかし)から日本(にほん)に住(す)んでいる生(い)き物(もの)。
 ドングリ等(など)木(こ)の実(み)を食(た)べて森(もり)でのんびり暮(くら)している。
 でも、ふつうは人間(にんげん)には見(み)えない。昼間(ひるま)は、たいてい寝(ね)ていて、
 月夜(つきよ)の晩(ばん)にオカリナを吹(ふ)くのが好(す)き。
 空(そら)を飛(と)ぶことができる。
 トトロと言(い)うのは、メイが付(つ)けて名前(なまえ)。
 大(おお)トトロ : 1300歳(さい)位(ぐらい)身長(しんちょう)約(やく)2メートル
 中(ちゅう)トトロ : 600歳(さい)位(ぐらい)
 小(しょう)トトロ : 100歳(さい)位(ぐらい)
 ネコバス : トトロ達(たち)が乗(の)るバス。人間(にんげん)には見(み)えず、ネコバスがそばを
 通(とお)るとつむじ風(じかぜ)が吹(ふ)いたように感(かん)じる。
 脚(あし)は、12本(ほん)。空(そら)も飛(と)べるし、水(みず)の上(うえ)も走(はし)れる。
 ススワタリ : 黒(くろ)いほこりの塊(かたまり)。

物語(ものがたり)は、昭和(しょうわ)30年頃(1955年ごろ)の5月(がつ)のある日曜日(にちようび)に、
 草壁家(くさかべけ)が、東京(とうきょう)の郊外(こうがい)に引(ひ)っ越(こ)してきくところから始(はじ)ま
 ります。

ところで、主人公(しゅじんこう)の姉妹(しまい)の名前(なまえ)は、二人(ふたり)とも5月(ごがつ)を意味
 (いみ)していますね。

お姉ちゃん(お姉ちゃん)のサツキは、陰暦(いんれき)の五月(ご)のこと。

妹(いもうと)のメイは、英語(えいご)の「MAY」だからやっぱり5月(ご)です。

(引っ越しの三輪トラックの荷台)

サツキ : お父さん、キャラメル。
 父 : オ、ありがとう、くたびれたかい。
 サツキ : ううん。
 父 : もう、じきだよ。

サツキ : アッ、メイ 隠(かく)れて。
お巡(まわ)りさんじゃなかった。 おーい。

父 : おうちのかた、どなたか、いらっしゃいませんか。
あ、どうも。
草壁(くさかべ)です。 ひっこしてきました。 よろしく、お願(ねが)いします。

おとこ : ご苦労様(くろうさま)です。
父 : どうもありがとう。

父 : さあ、着(つ)いたよ。
サツキ : ひゃあ。
メイ : ア、待(ま)って。
サツキ : メイ、橋(はし)が、あるよ。
メイ : はし!
サツキ : 魚(さかな)! ほら、また、光(ひか)った。
父 : どうだい、気(き)に入(い)ったかい。
サツキ : お父さん、素的(すてき)ね。
木(き)のトンネル。

サツキ : ああ、あの家(うち)。
メイ : うわあ、あははは!
サツキ : 早(はや)く。

サツキ : わあ、ボロ。
メイ : ボロ!
サツキ : お化(ば)け屋敷(やしき)みたい。
メイ : おばけ!
サツキ : アハハハハ。
腐(くさ)ってる。

サツキ&メイ : アハハハハ。
メイ : 倒(たお)れる。壊(こわ)れる。
サツキ&メイ : アハハハハ。
サツキ : メイ、みてごらん。
メイ : うん。
サツキ : ほら、太(おお)きいね。

サツキ : お父さん! すごい木(き)。
父 : あ、楠木(くすのき)だよ。
サツキ : あ、クスノキ!
メイ : クスノキ!
(家の中)
サツキ : あ



父 : おっと。
 サツキ : あ、ドングリ。
 メイ : あ、見(み)せて。
 サツキ : あ、また。

メイ : あ、あった
 父 : こらこら、雨戸(あまど)が、開(あ)けれあれないじゃないか。
 メイ : ドングリ!
 サツキ : 部屋(へや)の中(なか)に、ドングリが落(お)ちてるの。
 メイ : 上(うえ)から、落(お)ちてきたよ。
 父 : ふん、リスでも いるのかな。

サツキ&メイ : リス!

父 : それとも、ドングリ好(ず)きのネズミかな。
 メイ : メイ、リスが、いい。

おじさん : これ、どこへ運(はこ)びます?

父 : あ、ここへ、今(いま)開(あ)けます。
 サツキ、裏(うら)の勝手口(かってぐち)を開(あ)けて。

サツキ : はい。
 父 : 行(い)けば、すぐ分(わ)かるよ。
 サツキ : うん。

ほら、おいで
 メイ : 待(ま)って!
 サツキ : ほら、早(はや)く!
 サツキ : 行(い)くよ。
 メイ : うん。

メイ : お風呂(ふろ)。
 サツキ : うん。… いないね。
 父 : そこは、お風呂(ふろ)だよ。
 サツキ : お父さん! ここに、何(なに)かいるよ。
 父 : リスかい?
 サツキ : わかんない。ゴキブリでもない、ネズミでもない、黒(くろ)いのが、いっぱい いたの。
 父 : ふん。
 サツキ : どう?
 父 : これは、「マックロクロスケ」だな。
 サツキ : 「マックロクロスケ」? 絵本(えほん)に出(で)てた?
 父 : そうさ。こんないいお天気(てんき)に、お化(ば)けなんか出(で)るわけないよ。
 明(あか)るい所(ところ)から給(きゅう)に暗(くら)いところに入(はい)ると
 目(め)がくらんで“マックロクロスケ”が出(で)るのさ。

サツキ&メイ : そうか。「マックロクロスケ」出(で)ておいで。でないと目玉(めだま)をほじくるぞ。

父 : さあ、仕事(しごと)仕事(しごと)!
 二階(にかい)の階段(かいだん)は、いったい どこに あるでしょうか?

サツキ : え!
 父 : 階段を見(み)つけて二階(にかい)の窓(まど)を開(あ)けましょう!



サツキ : はい。
 メイ : あ、メイも。

メイ : お便所(べんじょ)。

サツキ : あれ
 あれ

メイ : あれ

サツキ : あれ

メイ : あれ

サツキ&メイ : あれ、ハハハ

サツキ : ない

メイ : ない

サツキ : あ、メイ、あったよ。…まっくろだね。

(家の二階)

メイ : “マックロクロスケ” !

メイ : はあ、あ、ドングリ

サツキ&メイ : “マックロクロスケ” でておいで! … わ! …

サツキ : “マックロクロスケ” さん、いませんか?

サツキ : お父さん、やっぱり、この家(うち)なにかいる。

父 : そりゃ、すごいぞ。お化(ば)け屋敷(やしき)に住(す)むのが、子供(こども)の時(とき)からお父(とう)さんの夢(ゆめ)だったんだ。

サツキ : あ、大変(たいへん) !

メイ : 取(と)った!! お姉(ねえ)ちゃん!!

父 : メイ!

(おばあちゃんにぶつかるメイ)

父 : メイ!

おばあさん : ハハハ、元気(げんき)だね!

父 : この家(うち)を管理(かんり)されてる隣(となり)のおばあちゃんだよ。
 応援(おうえん)に来(き)てくださったんだ。

サツキ : サツキに、妹(いもうと)のメイです。こんにちは。

おばあさん : はい、こんにちは。賢(かしこ)そうな子(こ)だよ。こんなに急(いそ)ぎでなきゃ家(うち)の手入(てい)れもしといたんだけど。

父 : ハハ、これで十分(じゅうぶん)ですよ。

おばあさん : 今(いま)時分(じぶん)は、田(た)んぼが忙(いそ)がしくて、
 でも、時々(ときどき)掃除(そうじ)は、しといたんだ。

サツキ : メイ、手(て)、真(ま)っ黒(くろ)じゃない! どうしたの。

メイ : マックロクロスケ、逃(に)げちゃった。

サツキ : あ、メイの足(あし)。あ、私(わたし)のも真(ま)っ黒(くろ)。

おばあさん : ほほ、いや いや いや いや いや、うん、こりゃススワタリが出(で)たな。

サツキ : ススワタリ?

ススワタリって、こんなん で ザワザワーって動(うご)くもの?

おばあさん : ほんだ。だあれも いない古(ふる)い家(うち)湧(わ)いて、そこらじゅう
 ススと埃(ほこり)だらけに しちゃうのよ。ちいちゃえ頃(ころ)には



わしにも見(み)えたが、そうか、あんたらにも見(み)えたんけ。

父 : そりゃ妖怪(ようかい)ですか？

おばあさん : あ、そったら恐(おそ)ろしげなもんじゃねえよ。ニコニコしとれば、
悪(わる)さはしねえし、いつの間(ま)にかいねくなっちゃうんだ。
今(いま)ごろ天井裏(てんじょううら)で引(ひ)っ越(こ)し相談(そうだん)でも
ぶってんのかな。

サツキ : メイ、みんな逃(に)げちゃうってさ。

メイ : つまんない。

サツキ : だって、こーんなの出(で)てきたらどうするの？

メイ : メイ、怖(こわ)くないもん！

サツキ : あら、じゃ夜(よる)になってもお便所(べんじょ)いっしょに行(い)ってやんない。

おばあさん : エッヘヘヘヘ！

おばあさん : さあさ、掃除(そうじ)しよう。川(かわ)で水(みず)を汲(く)んできておくんな。

サツキ : 川(かわ)で？

メイ : メイも行(い)く。

サツキ : メイは、そこで待(ま)ってな！

(家の庭)

メイ : お魚(さかな)捕(と)れた？

サツキ : おばあちゃん、出(で)た！

おばあさん : よーく、こぎな。水(みず)が冷(つめ)たくなるまで。

サツキ : はーい。

(台所)

サツキ : あ、さっきの。なに？ ご用(よう)？

カン太 : か、かあちゃんが、ばあちゃんに！

サツキ : なあに？

サツキ : え、あ、あ、まって！ これ なあに？

おばあさん : カン太(た)かい？

カン太 : やあい。おまえんち、お化け屋敷(やしき)！

おばあさん : カン太！

サツキ : ベー！

父 : そういうのお父さんにも覚(おぼ)えがあるな。

サツキ : 男(おとこ)の子(こ)嫌(きら)い。でも、おばあちゃんちのおはぎは、とっても好(す)き。

父 : ハハハ

おばあさん : たんと、おあがり。

サツキ : ご苦労(くろう)さま。

父 : どうもありがとうございます。

みんな : さようなら。

(お風呂)

メイ : お父さん、おうちボロだからつぶれちゃうよ。

父 : ハハハ。引(ひ)っ越(こ)したばかりでつぶれるのは困(こま)るな。

父 : ワハハハハハ！ みんな笑(わら)ってみな。おっかないのは、

逃(に)げちゃうから。ハハハハ！

メイ : メイ、怖(こわ)くないもん！

サツキ : ハハハハハ！

メイ : こわくないもん！

(庭)

サツキ&メイ : いち、に！ いち、に！ いち、に！ いち、に！

父 : それ、頑張(がんば)れ！ がんばれ！ がんばれ！

よし!洗濯(せんたく)おわり！

サツキ&メイ : わー！

サツキ : 出発(しゅっぱつ)！

(田んぼ道)

サツキ : おばあちゃん、こんにちは。

父 : ご精(せい)が出(で)ますね。

おばあさん : おそろいで、おでかけかい？

サツキ : お母(かあ)さんのお見舞(みま)いに行(い)くの。

おばあさん : そりゃ偉(えら)いよな。よろしくいっとくれ。

サツキ : はい。

カン太 : ベー！

サツキ : ベー！

サツキ : あー、こっち、こっち！

(七国山病院の病室)

サツキ : こんにちは。

母 : いらっしやい。

メイ : わあ、お母さん！

母 : メイ、よくきてくれたわね。

サツキ : お父さん、道(みち)間違(まちが)えちゃったんだよ

母 : そう。いらっしやい。

サツキ : 今日(きょう)、田植(たう)え休(やす)みなの。

母 : あ、そうか。

メイ : お父さん、先生(せんせい)とお話(はな)ししてる。

母 : みんな来(き)てくれて嬉(うれ)しいわ。新(あた)らしいお家(うち)どう？

もう、落(お)ち着(つ)いた？

母 : えっ、お化け屋敷(やしき)？

サツキ : うん。

メイ : お母さん、お化け屋敷(やしき)好(す)き？

母 : もちろん！早(はや)く退院(たいいん)して、お化けに会(あ)いたいわ。

サツキ : よかったね、メイ。

メイ : うん。

サツキ : 心配(しんぱい)してたの。お母さんが嫌(きら)いだと困(こま)るなって。

母 : サツキとメイは？

サツキ : 好(す)き。

メイ : メイ、怖(こわ)くないよ。

母 : ウフフフ。メイのかみのけ サツキが ゆってあげてるの？

母 : ウフフフ。メイの髪(かみ)の毛(け)サツキが ゆってあげてるの？

サツキ : うん。

母 : 上手(じょうず)よ。いいね、メイ。

メイ : うん。でも、おねえちゃん、すぐ怒(おこ)るよ。

サツキ : メイが おとなしくしないからよ。

母 : サツキ、おいで。ちょっと短(みじか)すぎない？

サツキ : あたし このほうが好(す)き。

メイ : あ、メイも、メイも。

サツキ : 順番(じゅんばん)！

母 : あいかわらずの くせつ毛(け)ね。あたしの子供(こども)の頃(ころ)と そっくり。

サツキ : 大(おお)きくなったら私(わたし)の髪(かみ)も、お母さんのようになる？

母 : たぶんね。あなたは母(かあ)さん似(に)だから。

(七国山病院の帰り道)

サツキ : お母さん、元気(げんき)そうだったね。

父 : あ、そうだね。先生も もうすこしで退院(たいいん)できるだろうって言(い)ってたよ。

メイ : もう少(すこ)しって、明日(あした)？

サツキ : また メイの 「あした」 が、始(はじ)まった。

父 : 明日(あした)は、ちょっと無理(むり)だな。

メイ : お母さん、メイのお布団(ふとん)で一緒(いっしょ)に寝(ね)たいって。

サツキ : あれ、 メイは大(おお)きくなったから、一人(ひとり)で寝(ね)るんじゃないの？

メイ : お母さんは、いいの！

父&サツキ : アハハハ、

(朝)

サツキ : お父さん！ 朝(あさ)ですよ！

メイ : えいっ！ 起(お)きろ！

父 : すまん、また、寝過(ねす)ごした。

サツキ : 今日(きょう)から、わたし、お弁当(べんとう)よ。

父 : しまった！ すっかり忘(わす)れてた。

サツキ : 大丈夫(だいじょうぶ)。みんなのも作(つく)るね。

メイ : 焦(こ)げてる！

サツキ : まって

サツキ : これ、メイのね。

メイ : メイの！

父 : メイ、すわって食(た)べなさい。

サツキ : はい。自分で包(つつ)んで。

メイ : わあ！

ともだち : さーつきちゃーん！

サツキ : あっ、大変(たいへん)!! はーあーい！

父 : もう 友達(ともだち)が、できたのかい。

メイ : 「さーつきちゃーん」だって。

サツキ : ああ、みっちゃんっていうの。ごちそうさま。いってきます。



父&メイ : いってらっしゃい

サツキ : おはよう。

ともだち : おはよう。はやく行(い)こう。

サツキ : うん。

(家の庭)

メイ : お父さん! メイ、おねえさんみたい?

父 : うん。お弁当(べんとう)さげて、どちらへ?

メイ : ちょっと そこまで。

お父さん、お弁当、まだ?

父 : ええっ! もう!?

メイ : お父さん、お花屋(はなや)さんね。

メイ : おたまじゃくし!

あ! あれ、底抜(そこぬ)けだ。

メイ : みっけ!

(トトロと初めて出会ったメイ)

メイ : あなたは だれ? マックロクロスケ?

トトロ : トオー、トオー、ブローロー

メイ : トトロ! あなた、トトロっていうのね。

トトロ : トオー、トオー、ブロー。

メイ : やっぱり トトロね。トトロ。

(サツキが学校からかえってくる)

ともだち : じゃね。

サツキ : あとでね。

ただいま。

父 : おかえり。あ、もう こんな時間か。

サツキ : メイは? みっちゃんちに行(い)くの。

父 : お弁当まだなんだ。めい、庭(にわ)で遊(あそ)んでないかい?

サツキ : メイ! メイ!

父 : メイ!

(茂みの前)

サツキ : メイ!

お父さん! メイの帽子(ぼうし)があった!

サツキ : あっ! メイ! メイ!

メイ! こら! 起(お)きろ! こんな とこで寝(ね)てちゃだめでしょ!

メイ : トトロは?

サツキ : トトロ?

メイ : あれ? あれ?

サツキ : 夢(ゆめ)みてたの?

メイ : トトロ いたんだよ。

サツキ : 「トトロ」って絵本(えほん)に 出(で)てた「トロル」のこと?

メイ : うん。 トトロって、ちゃんと言(い)ったもん。毛(け)がはえて、
こーんな口(くち)してて、

こんなのと、こんくらいのと、こーんなに大(おお)きいのが寝(ね)てた。

父 : いたいた。へえ、すごいね。秘密基地(ひみつきち)みたいだな。

サツキ : お父さん、メイ、ここでトトロに会(あ)ったんだって。



父 : トトロ？
 メイ : うん！ こっち！
 父 : おーい！ 待(ま)ってくれ！
 サツキ : ここ？
 メイ : ううん。さっきは大(おお)きな木(き)のところに(い)った。
 サツキ : だけど、一本道(いっぽんみち)だったよ。
 サツキ : あ、メイ！ もどっておいで！ メイったら！

サツキ&父 : アハハ、ハハハ

メイ : 本当(ほんとう)だもん。ほんとに トトロ いたんだもん。うそじゃないもん。
 父 : メイ..
 メイ : うそじゃないもん。
 父 : うん。お父さんもサツキもメイが、うそつきだなんて思(おも)ってないよ。
 メイは、きっと、この森(もり)の主(ぬし)に会(あ)ったんだ。 それは、とても
 運(うん)がいいことなんだよ。でも、いつも会(あ)えるとは、かぎらない。
 さあ、まだ、あいさつに行(い)ってなかったね。

メイ : あいさつ？
 父 : 塚森(つかもり)へ出発(しゅっぱつ)！
 父 : ひやあー！ メイも重(おも)くなったな。
 サツキ : お父さん、あの楠木(くすのき)！ 大(おお)きいね。
 メイ : あった！
 サツキ : あの木(き)？
 メイ : うん
 サツキ : お父さん、早(はや)く！ 早(はや)く！
 メイ : あっ、穴(あな)、なくなっちゃた。
 サツキ :ほんとに、ここ？
 メイ : うん。



サツキ : 穴(あな)が、消(き)えちゃったんだって。
 父 : ね。いつでも、会(あ)えるわけじゃないんだよ。
 サツキ : また会(あ)える？ わたしも会(あ)いたい。
 父 : そうだな。運(うん)がよければね。立派(りっぱ)な木(き)だなあ。
 きっと、ずっと、ずっと昔(むかし)からここに立(た)っていたんだね。
 昔々(むかしむかし)は、木(き)と人(ひと)とは、仲良(なかよ)しだったんだよ。
 お父さんは、この木(き)を見(み)て、あの家(うち)が、とっても気(き)に入(い)ったんだ。
 お母さんも、きっと、好(す)きになると思(おも)ってね。
 父 : さっ、お礼(れい)を言(い)って戻(もど)ろう。
 お弁当、食(た)べなきゃ！
 サツキ : そうだ！ みっちゃんちに行(い)く約束(やくそく)なんだ。
 メイ : メイも行(い)く！
 父 : 気(き)を付(つ)け！ メイが、お世話(せわ)になりました。
 これからも、よろしくお願いします。

サツキ&メイ : お願(ねが)いします。

父 : 家(うち)まで競争(きょうそう)！
 サツキ : あっ、ずるい。
 メイ : あー、待(ま)って！

サツキ : 早(はや)く！
 メイ : 待(ま)って！
 サツキ : 今日は、とてもすごいニュースがあるんです。
 メイが、お化けのトトロに出会(であ)いました。
 わたしも会えたらいいなあと思っています。

カン太母 : カン太、早くしないと遅(おく)れるよ。

(学校にメイが来る)

サツキ : メイ。先生(せんせい)。

先生 : はい、サツキさん。

サツキ : あの妹(いもうと)が・・・おばあちゃん、メイ。

おばあちゃん : ごめんな。お姉ちゃんのところへ行くってきかねえもんだから。

サツキ : だって、メイ、今日はお父さんが大学へ行く日だからおばあちゃん家でいい子して
 待ってるって約束(やくそく)したでしょう。

わたしはまだ、2時間あるし、おばあちゃんだって忙(いそが)しいのに。

おばあちゃん : ずっと、いい子にしてたんだよね。

サツキ : おばあちゃん、先生に話してくる。

先生 : サツキさんのお家はお母さんが入院(にゅういん)されていて大変(たいへん)なんです。
 皆(みな)さん、仲良(なかよ)くできますね。

生徒 : はい。

みっちゃん : なあに？それ。

メイ : トトロだよ。

サツキ : しーっ、おとなしくしてなきゃだめでしょ。

メイ : うん。

みっちゃん : メイちゃん、バイバイ。

サツキ : クラブ休(やす)むって言って。

みっちゃん : うん、先生に言っとく。

女の子 : またね。

メイ : バイバイ。

サツキ : メイ、急いで、雨(あめ)降(ふ)るよ。

メイ : うん。

サツキ : わあっ、降ってきた。

メイ : メイ泣(な)かないよ。偉(えら)い。

サツキ : ん、でも困ったね。お地藏様(じぞうさま)。ちょっと雨宿(あまやど)りさせてください。

カン太 : ん。

サツキ : で、でも。

メイ : お姉ちゃん、良かったね。

サツキ : うん。

メイ : かさ、穴(あな)、開(あ)いてるね。

サツキ : お父さん傘(かさ)持(も)って行かなかったね。

メイ : メイもお迎(むかえ)えに行く。

(カン太の家)

カン太 : だから忘(わす)れた。

カン太母 : 雨が降(ふ)ってるときに傘を忘(わす)れるバカが、どこにいる。

カン太 : イテェ。



カン太母： どうせ振(ふ)り回(まわ)して、壊(こわ)しちゃったんだよ。

カン太： 違(ちが)うわい。

サツキ： ごめんください。

カン太母： あら、サツキちゃん、メイちゃんも。ばあちゃん。

サツキ： 今日は、すみませんでした。

カン太母： こっちこそ、お役(やく)に立(た)てなくてねえ。

サツキ： あの、この傘カン太さんが、貸(か)してくれたんです。

カン太母： へえ、あの子が・・・やだよ。こんなボロ傘。

サツキ： メイもいたからとても助かったの。でも、カン太さんが濡(ぬ)れちゃって。
ありがとうございました。

カン太母： いいのよ。いつだって、泥(どろ)だらけなんだから。

ちっとは、きれいになるでしょう。お父ちゃんをお迎えに行くの。

サツキ： ええ。

カン太母： 偉(えら)いね。メイちゃん。バイバイ。

メイ： バイバイ。

おばあちゃん： 誰(だれ)か来たんけ？

カン太： しらねえ。

(バス停)

サツキ： あっ、ちょうど来たよ。

車掌： 乗(の)りますか。発車(はっしゃ)オーライ。

メイ： お父さん乗ってないね。

サツキ： きっと次(つぎ)のバスなんだよ。メイはおばあちゃん家(ち)で待ってる。
どうしたの？メイ、眠(ねむ)いの。だから言ったのに、
今からおばあちゃんちに行く。もうすぐだから頑張(がんば)りな。
バス遅(おそ)いね。ほら。

(次のバスを待っているサツキとメイ)

サツキ： トトロ？ あっ、待ってね。貸(か)してあげる。
早く、メイが落(お)ちちゃう。こうやって使(つか)うのよ。
バスが来た。トトロお父さんの傘、持ってっちゃった。

父： やあ、スマン、スマン。

車掌： 発車オーライ。

父： 電車が遅れてね。バスに間(ま)に合(あ)わなかったんだ。心配(しんぱい)したかい。

サツキ： 出たの。お父さん。出た出た。

メイ： ネコ、ネコのバス。

サツキ： すごく大きいの。

メイ： こーんな目してるの。

サツキ&メイ： こわい。

サツキ： あっちゃった。トトロに会っちゃった。すてき。

メイ： こわい。

サツキ： お母さん、まだ胸(むね)が、ドキドキしているくらいです。

(手紙) とても不思議(ふしぎ)で、不気味(ぶきみ)で楽(た)のしい一日(いちにち)でした。

それにトトロのくれたお礼(れい)もすてきだったの。

笹(ささ)の葉(は)でくるんで、リュウのヒゲでしばってある包みでした。

家に帰ってから開けてみました。そしたら中から木(こ)の実(み)が・・・

お家の庭(にわ)が森になったらすてきななので、木の実(み)は庭(にわ)にまくことにしました。



でも、なかなか芽(め)が出ません。

メイは毎日毎日まだ出ない、まだ出ないと言います。

まるで、猿(さる)かに合戦(がっせん)のかになったみたい。

もうすぐ夏休(なつやす)みです。お母さん様。サツキ。

父 : これこれ。消(け)すよ。

サツキ : 待って。

(夜、蚊帳の中)

メイ : お父さん、明日、芽(め)出るかな。

父 : そうだな。トトロなら知ってるんだろけどなあ。お休み。

サツキ : 木の実をまいたところだよ。

サツキ : メイ。私たち風(かぜ)にのってる。

メイ : 木がない。

サツキ : やった。

メイ : 出たあ。

サツキ : 夢(ゆめ)だけど。

メイ : 夢じゃなかった。

サツキ : 夢だけど。

メイ : 夢じゃなかった。

二人 : バンザーイ。



(おばあちゃんの畑)

郵便 : 草壁(くさかべ)さん、電報(でんぼう)です。草壁さん、電報ですよ。留守(るす)かな。

メイ : おばあちゃん。

おばあちゃん : こっちだよ。これなら食(た)べ頃(ごろ)だ。

サツキ : おばあちゃん。これは？

おばあちゃん : いいよ。

サツキ : おばあちゃんの畑(はたけ)って、宝(たから)の山(やま)みたいね。

おばあちゃん : さあ、ひと休(やす)みひと休み。よく冷(ひ)えてるよ。

サツキ : いただきます。おいしい。

おばあちゃん : そうかい。おてんと様、一杯(いっぱい)浴(あ)びてっから、体(からだ)にもいいんだ。

サツキ : お母さんの病気(びょうき)にも？

おばあちゃん : もちろんさ。

ばあちゃんの畑のものを食べりやすぐ元気(げんき)になっちゃうよ。

サツキ : 今度(こんど)の土曜日(どようび)、お母さん帰(かえ)って来るの。

メイ : メイのお布団(ふとん)で一緒(いっしょ)に寝(ね)るんだよ。

おばあちゃん : そうかい。いよいよ退院(たいいん)かい。

サツキ : ううん。まだ本当の退院(たいいん)じゃなくて、月曜日(げつようび)には病院(びょういん)へ戻るの。

少しずつ、ならすんだって。

おばあちゃん : そうかい。じゃあ、どんどん食べてもらわなくちゃね。

メイ : メイがとったトウモロコシ、お母さんにあげるの。

おばあちゃん : お母さん、きっと喜(よろこ)ぶよ。

カン太 : 電報、留守(るす)だからって預(あず)かった。

サツキ : わたしんち？おばあちゃん。お父さん夕方(ゆうがた)まで帰(かえ)らないの。

どうしよう。

おばあちゃん : 開(ひら)けてみな。急(いそ)ぎだといけねから。

サツキ : レンラクコウ シチコクヤマ。七国山(しちこくやま)病院(びょういん)。お母さんの病院(びょういん)からだ。

お母さんに何かあったんだ。おばあちゃん、どうしよう。

連絡(れんらく)しろって。

おばあちゃん：落ち着いて。お父さんの居場所(いばしょ)は、分(わ)かんのか。

サツキ：研究室(けんきゅうしつ)の番号(ばんごう)は知ってるけど、でも電話がないもん。

おばあちゃん：カン太本家(ほんけ)に連(つ)れてってあげな。電話、貸(か)してもらえ。

メイちゃんはここにいな。

サツキ：メイ、おばあちゃんここにいな。

(本家で電話を借りるサツキ)

サツキ：もしもし、市外(しがい)をお願いします。

東京(とうきょう)の31局(きょく)の1382番です。

はい。

本家：カン太、可愛(かわい)い子じゃねえ。

サツキ：もしもし、はい。もしもし、考古学(こうこがく)教室(きょうしつ)ですか。

あの草壁を、お願いします。私、草壁サツキです。はい。

あっ、お父さん。私サツキ。

父：やあ、なんだい。フンフン、病院から。分かった。

今すぐ病院に電話をしてみるよ。

サツキ：お母さんに何かあったの。どうしよう。お父さん。

父：大丈夫だよ。病院に確(たし)かめたら、すぐそっちへ電話するから、

そこで、待たせてもらいなさい。

サツキ：うん。

父：じゃあ、いったん、切(き)るからね。

サツキ：おばあちゃん、ここで待たせてください。お父さんが電話してくるの。

本家：ああ、ゆっくりしていきな。

メイ：お姉ちゃん。

(メイがやぎと出会う)

メイ：だめだよ。これ。お母さんのトウモロコシだよ。

だめだもん。お母さんにあげるんだもん。

サツキ：メイ、お母さんの体の具合(ぐあ)いが、悪いんだって。

だから、今度(こんど)帰ってくるの延(の)ばすって。

メイ：やだー。

サツキ：仕方(しかた)ないじゃない。

無理(むり)して病気が重(おも)くなったら困(こま)るでしょう。

メイ：やだー。

サツキ：じゃあ、お母さんが、死(し)んじゃってもいいのね。

メイ：やだー。

サツキ：ねっ、ちょっと延ばすだけだから・・・

メイ：やだー。

サツキ：じゃあ、母さんが死(し)んじゃってもいいのね。

メイ：やだーっ。

サツキ：メイのバカ。もう知らない。

カン太：行こうよ。

メイ：お姉ちゃんのバカー。



(家)

おばあちゃん：そろそろ、洗濯(せんたく)もんしまわんと。そんなに気(き)を落(お)とさんで。

ばあちゃんが、手伝(てつだ)いに来てやったから、元気(げんき)だしな。

お父さんが、病院へ寄(よ)ると言ってるんでしょ。

お母さんは、風邪(かぜ)だというんだから、

次の土曜日には戻ってくるよ。

サツキ：この前(まえ)もそうだったの。ほんのちょっと入院(にゅういん)するだけだって。

風邪(かぜ)みたいなもんだって。お母さん、死んじやったらどうしよう。

おばあちゃん：サツキちゃん。

サツキ：もしかしたら、お母さん…。

おばあちゃん：大丈夫(だいじょうぶ)。大丈夫。こんな可愛(かわいい)い子たちをおいて、

どこの誰(だれ)が、死ねるかい。泣(な)くんでね。泣(な)くんでね。

父(ちち)ちゃんが戻るまで、ばあちゃんがいてやっから、な。

(メイが、トウモロコシを持って家を出る)

おばあちゃん：メイちゃん。

サツキ：メイ。メイ。戻(も)ってきてな。

おばあちゃん：バス停(てい)にもにいなかったけ。おかしいねえ。

どこさ、行(い)っちゃったもんだか。

サツキ：さっき、メイとケンカしたの。だってメイったら…。

あの子、お母さんの病院(びょういん)にいったんじゃないかしら。

おばあちゃん：七国山(しちこくさん)の病院(びょういん)かい。まさか。大人(おとな)の脚(あし)でも3時間は、かかるわ。

サツキ：見てくる。

おばあちゃん：カン太(こうた)一。早く、父(とう)ちゃん呼(よ)んで来(こ)い。

メイちゃんが、いなくなっちゃったんだ。

サツキ：メイのバカ。すぐ迷子(まいご)になるくせに。メーイ。

すみません、おじさん、あの、

男(おとこ)：えっ

サツキ：この道(みち)を小さな女の子が、通(とお)らなかつたですか。私の妹(いもうと)なの。

男(おとこ)：さあてね、女の子。見たら気が付(し)いただろうけどなあ。

サツキ：こっちじゃないのかしら。

男(おとこ)：確(たし)かにこっちへ来(き)たのかい。

サツキ：分からないの。メーイ。

(サツキが三輪車(さんりんしゃ)の前に飛び出す)

サツキ：止(とど)まってください。

若い男(わかいおとこ)：バカやろう。あぶねえ。

サツキ：妹(いもうと)を捜(さが)してるんです。女の子、見(み)ませんでした？

娘(むすめ)：妹(いもうと)さん？

サツキ：七国山(しちこくさん)病院(びょういん)へ行(い)ったらしいの。四歳(よんさい)の女の子です。

若い男(わかいおとこ)：良子(りょうこ)ちゃん、気が付(し)いた。

娘(むすめ)：ううん、私たち七国山(しちこくさん)から来(き)たの。そういう子、見(み)なかつたわよ。

サツキ：そう。ありがとう。

若い男(わかいおとこ)：おまえ、どこから来(き)たの？

サツキ：松郷(まつごう)です。

若い男(わかいおとこ)：まつごう？

娘(むすめ)：何かの間違(まちが)いじゃない。

若い男 : じゃあな。

(カン太が自転車に乗って来る)

カン太 : サツキー。

サツキ : カンちゃん。いた？。

カン太 : だめだ。こっちも。

サツキ : うん。

カン太 : 今、父(とう)ちゃん達(たち)が探(さが)してる。

俺(おれ)が代(か)わりに七国山へ行ってやるから、お前は、家へ戻れ。

サツキ : メイは病院へ行こうとして、途中(とちゅう)で道を間違えたのよ。きっと。

カン太 : さっき、神池(しんいけ)でサンダルが見つかったんだ。

まだ、メイのものって、決まってないぞ。

男 : 見つかったかい？

(神池)

おばあちゃん : ナンマンダブ ナンマンダブ ナンマンダブ・・・

男A : そっちの方は、泥が深いからその先。

男B : おーい。竿、余ってないかあ。

みっちゃん : ばあちゃん、サツキちゃんが来た。

サツキ : おばあちゃん。

おばあちゃん : これ、これだよ。

サツキ : メインじゃない。

おばあちゃん : よかったよ。あたしや、てっきりメイちゃんのかと思って・・・

カン太父 : 何だ。ばあちゃんの早(はや)とちりかよお。

男B : じゃ、どこに行ったんだろう。

男A : もういっぺん、探(さが)し直(なお)しだな。

男B : 早(はや)くしないと暗(くら)くなるよ。

カン太父 : すまねえな、みんな。ご苦労(くろう)でも手分(てわ)けして頼(たの)むよ。

男A : いや、お互(たが)い様(さま)だからな。

みっちゃん : サツキちゃん。

(しげみのトンネルの前)

サツキ : お願い。トトロのところへ通(とお)して。メイが迷子になっちゃったの。

もうじき暗(くら)くなるのに。あのどこかで道に迷ってるの。

トトロ! メイが迷子になっちゃったの。探(さが)したけど見つからないの。

お願い。メイを探(さが)して。きっと、どこかで泣(な)いてるわ。

どうしたらいいか分からないの。

トトロ : ブオーー

(猫のバスに乗る)

サツキ : みんなには見えないんだわ。

おばあちゃん : メーイちゃん。

サツキ : 木がよけてる。メイ。

メイ : お姉ちゃん。お姉ちゃん。

サツキ : メイ。

メイ : お姉ちゃん。

サツキ : バカ、メイ。

メイ : ごめんなさい。



サツキ : トウモロコシをお母さんに届(とど)ける気(き)だったの？

病院へ行ってくれるの？ありがとう。

(七国山病院の病室)

母 : ごめんなさい。ただの風邪なのに病院が電報(でんぽう)打(う)ったりしたから・・・。
子供達(こどもたち)きっと心配(しんぱい)してるわね。かわいそうなことしちゃった。

父 : いや、分かれば安心(あんしん)するさ。
君(きみ)もみんなも、これまでよく頑張(がんば)って来(き)たんだもの。
楽(たの)しみが、ちょっと延(の)びるだけだよ。

母 : あの子たち、見かけよりずっと無理(むり)して来たと思(おも)うの。
サツキなんか、聞き分(きわ)けがいいから、なおのことかわいそう。

父 : そうだね。

母 : 退院したら今度はあの子たちに、うんとわがままさせてあげるつもりよ。

父 : おいおい。

(松の木の上からお母さんを見ているサツキとメイ)

メイ : お母さん笑(わら)ってるよ。

サツキ : 大丈夫みたいだね。

メイ : うん。

母 : さあ、早く元気にならなくっちゃね。

父 : ああ。あれ？誰(だれ)だろう。

母 : あっ。

父 : どうしたの？

母 : 今そこの松(まつ)の木で、サツキとメイが笑ったように見えたの。

父 : 案外(あんがい)そうかもしれないよ。ほら。

(窓のところに「おかあさんへ」と書いた トウモロコシが一つ置いてある)





となりの トトロ

[単語] (トトロ-1)



Hideaki-Kitani

キャラメル	캐러멜	くたびれる [つかれる]	지치다, 피로하다
もうじき	곧, 바로, 금방	隠(かく)れる	숨다
お巡(まわ)りさん	경관, 순경	ご苦労様(くろうさま)	수고 하셨습니다
素敵(すてき)	멋짐	ボロ(いえ)	낡아빠진 집, 고물
お化(ば)け屋敷(やしき)	도깨비 집	腐(くさ)る	썩다
壊(こわ)れる	부서지다, 파괴되다	楠木(くすのき)	장목(樟), 녹나무
ドングリ	도토리	こらこら	이봐 이봐
雨戸(あまど)	빈지문, 덧문	リス	다람쥐
ネズミ	쥐	運(はこ)ぶ	운반하다, 나르다
勝手口(かってぐち)	부엌문	お風呂(ふろ)	목욕탕
ゴキブリ	바퀴	マックロクロスケ	막쿠로쿠로스케
絵本(えほん)	그림 책	目(め)がくらむ	눈앞이 캄캄해지다
目玉(めだま)	눈알(눈동자:ひとみ)	ほじくる	후비다, 우비다
二階(にかい)	이층	お便所(べんじょ)	변소
真(ま)っ暗(くら)	아주 캄캄함, 암흑	ヨイシャ	이영차
お隣(となり)	이웃 집	応援(おうえん)	응원
賢(かしこ)い	현명하다, 영리하다	手入(てい)れ	손질, 손보기
時分(じぶん)	때, 쫌, 무렵	たんぼ	논
ススワタリ	새까만 먼지의 덩어리	ゾワゾワー	스사사사-악
湧(わ)く	솟다, 생기다	スス(煤)	검댕, 매연(煤煙), 그을음
埃(ほこり)	먼지	わし [わたし]	나
妖怪(ようかい)	요괴, 도깨비	恐(おそ)ろしげな	무서운 듯한
ニコニコ	싱글벙글, 생긋생긋	悪(わる)さ	(못된)장난
天井裏(てんじょううら)	천장 뒤, 안	引っ越(ひっこ)し	이사
ぶっ [する]	(연설)하다	つまんない [つまらない]	시시하다, 재미없다
怖(こわ)い	무섭다	汲(く)む	(물을)푸다, 뜨다
こぐ	젓다	御用(ごよう)	일, 용무
覚(おぼ)えがある	기억이 있다	おはぎ	팔 등을 문힌 떡의 일종
たんと [たくさん]	많이	つぶれる	찌부러지다, 찌그러지다
おっかない [おそろしい]	무섭다, 두렵다	頑張(がんば)れ	힘내라, 분발해라
精(せい)が出(で)る	힘써 일하다	おそろいで~	모두 같이~
お見舞(みま)い	병문안	偉(え)らい	훌륭하다, (잘)나다



間違(まちが)える	틀리다, 잘못하다	田植(たう)え	모내기
落(お)ち着(つ)く	안정되다	退院(たいいん)	퇴원
結(ゆ)う	(머리를)땀다	おとなしく	얌전하게
相(あい)変(か)わらず	변함없이	癖毛(くせげ)	한쪽으로 자는 버릇이 있는 머리털
そっくりだ	꼭 닮았다	似(に)	닮음
お布団(ふとん)	이불, 요	寝過(ねす)ごす	늦잠 자다
お弁当(べんとう)	도시락	しまった	실수했다
すっかり	완전히	焦(こ)げる	늡다, 타다
包(つつ)む	싸다	さげる	들다
お花屋(はなや)さん	꽃가게	おたまじゃくし	올챙이
底拔(そこぬ)け	밑빠짐	庭(にわ)	마당, 정원, 뜰
帽子(ぼうし)	모자	秘密基地(ひみつきち)	비밀기지
一本道(いっぽんみち)	갈라지는데 가없는 길		
うそつき	거짓말쟁이	森(もり)の主(ぬし)	숲의 주인
運(うん)がいい	운이 좋다	限(かぎ)らない	꼭~하다고는 할 수 없다
挨拶(あいさつ)	인사	穴(あな)	구멍
消(き)える	사라지다, 없어지다	仲(なか)よし	사이가 좋음
お礼(れい)	사례의 말	気(き)をつけ	정신 차려!
お世話(せわ)になる	신세를 지다	競争(きょうそう)	경쟁
ずるい	교활하다, 능글맞다	いい子(こ)にする	착하게 하다 ?
お化(ば)け	도깨비	成績(せいせき)	성적
降(ふ)る	내리다, 오다	泣(な)く	울다
お地藏様(じぞうさま)	지장	雨宿(あまやどり)	비를 그음 ※
穴(あな)が開(あ)く	구멍이 뚫리다	迎(むか)え	마중, 맞으러 가다
振(ふ)り回(まわ)	휘두르다	壊(こわ)す	파손시키다, 고장내다
違(ちが)う	틀리다, 어긋나다	お役(やく)に立(た)つ	도움이 되다
貸(か)す	빌려주다	助(たす)かる	도움이 되다, 면하다
濡(ぬ)れる	젖다	泥(どろ)だらけ	흙문은 더러운 상태
眠(ねむ)い	졸리다	間(ま)に合(あ)う	시간에 대다
ドキドキ	두근두근, 울렁울렁	不思議(ふしぎ)	이상함, 불가사의
不気味(ぶきみ)	어쩐지 무서움, 어쩐지		기분이 나쁨
お礼(れい)	사례의 선물	笹(ささ)の葉(は)	조릿대 잎
※軒下(のきした)で雨宿りをする	처마 밑에서 비를 그다.		



(トトロ-3)

くるむ(つつむ)	감싸다, 둘러싸다	リュウのヒゲ	(植)소압맥문동
しばる	묶다	包(つつ)み	싼 물건, 보따리
木(こ)の実(み)	나무의 열매	まく	(씨를)뿌리다
目(め)が出(で)る	썩이 돋다		
猿(さる)かに合戦(がっせん)	원숭이와 게의 합전		
電報(でんぼう)	전보	留守(るす)	부재중(不在中)
食(た)べ頃(ごろ)	먹기에 적당함, 제철	畑(はたけ)	밭
宝(たから)の山(やま)	보물의 산	ひと休み	잠깐 쉬
冷(ひ)える	차가워지다	おてんと様(さま)	해님, 태양
浴(あ)びる	(햇볕을)죄다, 뒤집어쓰다	慣(な)らす	환경에 익도록 하다
どんどん	자꾸(부쩍부쩍)	預(あず)かった	맡았다
七国山(しちこくやま)	(병원이름)	連絡(れんらく)	연락
居場所(いばしょ)	있는 곳, 거처	本家(ほんけ)	본가, 종가
連(つ)れて行(ゆ)く	데리고 가다	貸(か)す	빌려주다
考古学(こうこがく)	고고학	フンフン	흥흥, 응응
確(たし)かめる	확인하다	いったん	일단(一旦)
ゆっくりする	마음 편히 시간을 보내다	トウモロコシ	옥수수
具合(ぐあい)	상태	延(の)ばす	연기(延期)하다
仕方(しかた)ない	할 수 없다	無理(むり)	무리
困(こま)る	곤란하다	ちょっと	조금, 좀, 잠깐, 약간
しまう [かたづける]	치우다, 챙기다	気(き)を落(お)とす	낙심하다
寄(よ)る	들르다	風邪(かぜ)	감기
ケンカ	싸움	まさか	실마
迷子(まいご)	미아	くせに	~이면서도, ~주제에, 그런데도
捜(さが)す	찾다	間違(まちが)い	틀림
サンダル	샌들	南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ)	나무아미타불
泥(どろ)	흙	竿(さお)	장대, 작대기
てっきり	틀림없이	早(はや)とちり	지레짐작하다가 실패하는 일
探(さが)し直(なお)し	다시 찾다	手分(てわ)け	분담(分担)
お互(たが)い様(さま)	피차 일반, 서로	届(とど)ける	보내어 주다
かわいそう	불쌍하다	見(み)かけ	겉보기, 외관(外觀)
聞(き)き分(わ)け	들어 분별함	なおのこと	더한층, 더군다나
うんと(たくさん)	많이, 매우	わがまま	제멋대로 굼, 버릇없음
笑(わら)う	웃다	案外(あんがい)	뜻밖에도, 예상외로

散歩(さんぽ)



となりのトトロ(オープニングテーマ)

歌：井上あずみ

歩(ある)こう 歩こう 私(わたし)は 元気(げんき)
歩くの 大好(だいす)き どんどん 行(ゆ)こう
坂道(さかみち) トンネル 草原(くさっぱら)



一本橋(いっぽんばし)に 凸凹(でこぼこ) 砂利道(じゃりみち)
蜘蛛(くも)の巣(す) くぐって 下(くだ)り道(みち)

歩(ある)こう 歩こう 私(わたし)は 元気(げんき)
歩くの 大好(だいす)き どんどん 行(ゆ)こう

蜜蜂(みつばち) ブンブン 花畑(はなばたけ)
ひなたに とかげ 蛇(へび)は 昼寝(ひるね)
バッタが 飛(と)んで まがりみち

歩(ある)こう 歩こう 私(わたし)は 元気(げんき)
歩くの 大好(だいす)き どんどん 行(ゆ)こう

きつねも 狸(たぬき)も 出(で)でおいで
探検(たんけん)しよう 林(はやし)の 奥(おく)まで

友達(ともだち)たくさん うれし い なあ
友達(ともだち)たくさん うれし い なあ

「산보」

토나리노 토토로 Opening theme

(이웃의 토토로)

노래 : 이노우에 아즈미

걷자 걷자 나는 건강해
 걷는 것 정말 좋아 척척 가자

언덕길 터널 초원
 외나무다리에 울퉁불퉁 자갈길
 구름 사이 헤치고 내리막길

걷자 걷자 나는 건강해
 걷는것 정말 좋아 척척 가자

꿀벌 뽕뽕 꽃밭
 양지에 도마뱀 뱀은 낮잠
 메뚜기가 뛰어서 굽이길

걷자 걷자 나는 건강해
 걷는것 정말 좋아 척척 가자

여우도 너구리도 나와라
 탐험하자 숲 속 깊은 곳까지

친구가 많아서 즐겁구나
 친구가 많아서 즐겁구나



となりのトトロ

(エンディングテーマ)

だれかが こっそり
こみちに このみ うずめて
ちっさな め はえたら ひみつの あんごう
もりへの パスポート
すてきな ぼうけん はじまる

となりの トトロ トトロ トトロ トトロ
もりのなかに むかしから すんでる
となりの トトロ トトロ トトロ トトロ
こどもの ときにだけ あなたに おとずれる
ふしぎな であい

あめふり バスてい
ズブヌレ オバケが いたら
あなたの あまガサ さしてあげましょ
もりへの パスポート
まほうのとびら あきます

となりの トトロ トトロ トトロ トトロ
つきよの ばんに オカリナ ふいてる
となりの トトロ トトロ トトロ トトロ
もしも あえたなら すてきな しあわせが
あなたにくるわ

トトロ トトロ トトロ トトロ
もりのなかに むかしから すんでる
となりの トトロ トトロ トトロ トトロ
こどもの ときにだけ あなたに おとずれる
ふしぎな であい

トトロ トトロ トトロ トトロ
トトロ トトロ トトロ トトロ



토나리노 토토로

(Ending Theme)



누군가가 살며시
오솔길에 나무열매 심어서
조그만 싹 자랐다면 이는 비밀의 암호
숲속으로의 여권
멋진 모험이 시작될거예요

이웃의 토토로 토토로 토토로 토토로
숲속에서 옛날부터 살고있는
이웃의 토토로 토토로 토토로 토토로
어린이 시절에만 당신을 찾아오는
불가사의한 만남

비내리는 버스정거장
흠뻑젖은 도깨비가 있다면
당신의 우산을 받쳐줘보세요
숲속으로의 여권
마법의 문이 열릴거예요

이웃의 토토로 토토로 토토로 토토로
달밤에 오카리나 불고있는
이웃의 토토로 토토로 토토로 토토로
혹시 만났다면 멋진 행복이
당신에게 올거예요

토토로 토토로 토토로 토토로
숲속에서 옛날부터 살고있는
이웃의 토토로 토토로 토토로 토토로
어린이 시절에만 당신을 찾아오는
이상한 만남

토토로 토토로 토토로 토토로
토토로 토토로 토토로 토토로

